

企 画■つくばペデウォーク ～ガグエンさ行ってみっぺ(学園に行ってみよう)～

日 時■2009年10月17日(土) 11:00～17:20

コース■赤塚公園～東小学校～洞峰公園～二の宮住宅地～筑波国際会議場～竹園西小学校～つくばカピオ  
＜昼食休憩＞～つくば三井ビル～筑波センタービル～中央公園～筑波学院大学～松見公園展望塔＋  
レストハウス＜休憩＞～筑波大学追越学生宿舎～同平砂学生宿舎～同体育・芸術学群キャンパス～  
同第一学群キャンパス～同第二・第三学群キャンパス～同一ノ矢学生宿舎＋生活センター

参加者■◎佐藤晶子＋大竹 亮（コーディネーター）

飯村卓郎、片桐拓朗、栗原 徹、清水俊哉、恒川磯雄、砺波 匡、橋本めぐみ、古里 実、  
森 正志、矢作峰子、脇野真澄、脇野陽子 （以上14名 敬称略）

企画主旨■筑波研究学園都市という国策によって創られた約2,700haの計画都市は、40年を経て成熟し、  
念願のTX(つくばエクスプレス)も開業して新たな変化を迎えつつあります。この新都市の中央を貫く  
約8kmのペデストリアンウェイを南から北まで歩き通し、筑波の現在を実感し、今後を考えましょう。



#### ＜参加者の意見・評価＞

##### 1 ■筑波研究学園都市の全体について

評価：2.80 内訳：ABBBBBBBCC-

A：研究機能のためのニュータウンという独自のコンセプトで創られた都市であり、広い並木道、美しい建物、緑豊かな環境、歩車分離の道路ネットワークなど、計画水準は非常に高い。当初は車社会であったが、TXの開通によってセンター地区に商業集積や高層住宅が増え、都市的な賑わいが生まれつつある。

B：センター周辺の開発もそうですが、大学構内にも新しい建物ができていたり、どこをとっても進化していると感じました。TXが開通して、今後どのように発展していくのかが楽しみです。

B：様々な経緯と諸条件をクリアしながら計画が練られ、具体化されて出来上がった街なので、理想に届かなかった点もあると思いますが、全体としては良い町になっていると思います。ただ、どうしても「車社会」の街という側面が強く感じられてしまうのが少々残念です。

B：学園都市全体の評価ではないが、今回歩いた印象として、公団による計画的な基盤整備と建築家の活用により、街の背骨の部分に一定の質の高い建築群と緑地空間がつながっていると感じた。

B：以前は、大学と研究施設と官舎がほとんど、の印象だったが、最近は普通のお店や家、普通の集合住宅が増えてきて印象が変わってきた。

B：当初抱いていたのは「人工的につくられた街で無機的」というイメージでしたが、決してそんなことはなく、また、とにかくユニークな建造物が多くて面白かったです。ただ、まっすぐで広い道が多かったこと、大きな道路沿いにしか店らしい店がほとんどなかったことだけが、ちょっと残念でした。

B：全体に空間の使い方が贅沢で、池・沼も多く、自然を感じる点で非常に良いと思う。全体に人工的な新都市なので歴史性がないのは当然とはいえ、物足りない。また、中心地はもっと密集感・猥雑感がないと、あまりに無味無臭でつまらない。

B：個別に見ればAもあればDもありますが、おおむね当初の計画通りに都市として成長してきた、という程度のことで評価すれば、Bといったところでしょう。

C：学園都市にあるひとつひとつの建築物や公共空間の質は非常に高いが、全体として見ると、車のための都市になっており、人間の都市としてはスケールアウトしている。

C：つくばは暮らしやすく家族とも好きなのですが、成立から今に至るまで時代に流されている感じがするので厳しめの評価です。例えば、TXは本来ペDESTリアンウェイの下を走り、周辺は高度利用すべきというのが私の意見です。（これはウォークではなく都市の評価です）

ー：今回ペDESTリアンウェイを南から北へと縦断し、当然ですが、大きな公園、学校、研究施設が整然と配置されていることを実感しました。たまたま、当日、地元の方に教えて頂きました、つくばと土浦の間に位置する「穴塚・大池」の里山の自然観察会に、本日娘と参加して参りました。改めて、研究学園都市が計画的都市空間であること、こんな原風景があったのかもしれないということを感じました。

## 2 ■ペDESTリアンウェイについて

### 2-1 ■ペDESTリアンウェイ全体

評価：3.73 内訳：AAAAAABBBCC

A：計画的に作られた都市だからこそ実現できた南北8キロにも及ぶペDESTリアンウェイは、自然と隣接した空間であった。見応えのある建築物も多く、車を気にすることなく歩くことができることは、非常に魅力的である。

A：南北に細長い研究学園都市を貫いており、研究所、住宅地、公共施設、駅前地区、公園、大学に面し、あるいは通り抜けていて、変化にあふれている。車が通らない道を、緑の中や水辺、建物の間と歩いて行くのはとても心地よい。

A：普通の歩道ともちがう歩行者（自転車）専用道は、無機的になりがちな人工的な街を親しみやすくしてくれる。また、学園都市の南端から北端近くまで、1本でつながっていることがすばらしい。

A：車に気を遣わず歩けるのは何よりです。それにまた、緑と水の空間があれだけたくさん確保されているというのも貴重なことだと思います。

A：つくばに転勤してきて2ヶ月余りでしたが、ペDESTリアンウェイが開発地の南端から大学の北端までつながっているとは知りませんでした。各ブロックごとに特色のある、しかも質の高い環境の中を全て歩いて行けるという点、大変優れた空間として維持されていると思いました。

A：遊歩道として規模が大きく、整備が行き届き、素晴らしい。案内標識もきちんと作られている。

B：街の中心軸としてペDESTリアンウェイが計画されていることが明快で良い。

B：連続した公園という雰囲気がある。オーバー、アンダーの処理はセンター地区以外は×。

B：とても面白いし、うらやましい空間だと思う。ただ、つくばは車社会なので、本当に近隣の方々や、それ目当てに車で公園などに訪れる人しか使われていないのではと、少し不安も感じました。

C：学園都市のほぼ全体を南北に貫くペDESTリアンウェイがあり、緑豊かな空間が連続しているということは非常に素晴らしいが、特に夜間は治安の問題が心配。

C：筑波研究学園都市全体では、やはり自動車交通中心の計画になっていることと、道路にもそれなりの歩道が整備されているため、ペDESTリアンウェイは歩行者にとっては、本当に短距離利用するための機能になっていると感じた。もし、これが既成市街地の中にあるのであれば、当然、歩行者にとっての主要動線になるであろうが、ここではそうはなり得ない。



二の宮住宅地のペDESTリアンウェイ



中央公園を抜けるペDESTリアンウェイ

2-2 ■赤塚公園から研究所+戸建住宅地ゾーン 評価：3.60 内訳：AAAAABBBCC-

A：アカマツ林を活かしているところなど、自然の残し方がとてもよかったと思います。小・中学校の校舎も、風景に溶け込むデザインで素敵でした。

A：ペデとその隣接する施設、ペデを隔てた近隣の施設との空間的関係がよいと思いました（特に、教育施設とペデ。教育施設と公園など）。ただ、建設当初はなかったであろう、フェンスや柵などが現在はあったり、施設の入口がふさがれていたり、折角のペデとの一体感が失われているのが、もったいなく残念にも感じました・・・が、この世の中では仕方ないですね。近隣の公園をわが物顔？で使える子供たちや、季節感を十分に感じながらお散歩ができるペデ近隣の住民の方々が、とてもうらやましいです。

A：雑木林が残る公園は、四季を通じて楽しめそうだ。特別公開日だったNASDAは、ペデからも入場ができるようにして欲しかった。

A：ほとんどが広大な研究所や学校などの公共施設に面しており、「緑道」として大変すばらしい計画、つくりになっていると思いました。ただ、少く「にぎわい」を作り出すような仕掛けがあってもいいのではないかと思います。また、せっかくいろいろな施設が沿線にあるのに、ペデを歩いているだけでは何があるのか良くわからないし、研究所の敷地内の様子も伝わってこない（何かの裏側を見ているような）ので、そういう、ものの見せ方にも工夫があるといいと思いました。当日は土曜日でしたが、平日の様子や、実際に沿道の住宅地に住んでいる人達がどう感じているのかも知りたいところです。

A：昔の自然を活用した公園と研究所建物の対比が印象的。

B：研究所の裏側には樹木がうっそうとしているなど、変化にとんでいる。

B：公園や学校と一体的に計画されており、緑豊かで非常にすぐれた環境となっている。ただ、研究所敷地に入口が少ないのは、ペデの機能を損なっているように思う。

B：在来の植生を活かした公園やペデに開かれた雰囲気のある学校は好感が持てるが、研究所敷地は背中を見せているものが多く残念。

C：緑豊かな空間だが、研究所等はペデに背を向けており、店舗などもあまりないので、街としては物足りない。

C：現況では「贅沢でもったいない」感じ。



ペデに面する木造校舎の東小学校



気象研と産総研の間を過ぎるペデ

2-3 ■TXつくば駅周辺（センター地区ゾーン） 評価：3.00 内訳：AAAABBBCCCC

A：センター地区ゾーンでは、自動車から分離され、また喧騒を伴うような業務・商業施設などからも一定程度距離を保てる歩行者専用道路の良さが発揮されていた。それでいて、いくつかのカフェや多くの文化施設と、機能的にしかも心地よく接している位置関係は特に良かった。それより南と北では、交通計画的にはあまり意味は無く、大規模公園の主要園路といった位置づけになっていると感じた。

A：建物に囲まれた広場、公園の中を抜ける遊歩道、カフェが面する散歩道といった雰囲気になっており、面する建物の質も高く、高水準の空間を創っている。TX開通後、新しい建物が増えたが、ペデ沿いに建つマンションの1階は店舗が入るといいのだが。

A：ユニークな建物（いいもの、そうでないものも含めて）の間を抜けて行けるところがよい。道からお店の中などが見えると所が多いととってもいい。

A：つくばセンターの広場は、迷路のようなおもしろい空間だった。

B：センター地区は各々の建築物がペデを意識して造られており、都市的な雰囲気が生まれている。

B：ずいぶん都市らしくなったな～、と少し感慨深かったです。巨大なマンションが、悪い意味で少し気になりました。大清水公園の池で、高校生が水質調査をしていました。「つくば市に公園をもっと活用したいと伝えたら、『まずは裏付けとなるデータを取ったら？』とのアドバイスをもらったから調査している」と、とても礼儀正しく、ハキハキした口調で答えてくれました。この生徒たちによって、これからどのように活用されていくのか、とても楽しみです。

B：沿線の中では、唯一都市的な賑わいが感じられるところですが、一部でこぼこ、あるいは、表面が傾いてしまっているような部分がありました。ももとの計画・設計の面白さがあるので全体としては良い空間になっているのですが、だからこそなお、維持管理にももう少し力を入れてもらっても良いのではないかと思います。

C：駅周辺はさすがに機能重視なのか、道も建物も直線的なものが多かった気がします。「つくばカピオ」と「中央公園レストハウス」は美しかったです、それ以外はなんとなく威圧的というか、優しさを感じさせる建物が少なかったように思います。

C：2階レベルは、にぎわいもあって〇。ただし、1階レベルが有効に利用されているかは少々疑問。サンクンガーデンが十分活用されず、もったいない。

C：センタービルの建物自体はインパクトがなく、その前の広場も、よく見ると相当凝った建築であることが分かるが、多くの人には多少変化があるものの中途半端な空間という感じではないか。特にセンタービル周辺は、「色」のインパクトがなさ過ぎ（銀・灰色のモノトーン）で今ひとつ。中央公園（エキスポセンター）周辺も、空間が空きすぎている感じ。

C：センター地区にもかかわらず、ペデ側にお店が少ないのが残念。



樹木の茂るペデと新しい高層マンション



筑波センタービル前の人工広場を貫くペデ

## 2-4 ■筑波大学キャンパス+学生宿舎ゾーン

評価：3.20 内訳：AAAABBBCCC-

A：駅からの歩行者道がそのままキャンパス内に入り、学棟や宿舎を結ぶ主要な軸線となる。道に沿って、あるいは広場を囲んで並ぶ学生宿舎群は、外国の住宅団地のように美しく、生活センターに機能を外部化している点もユニークだ。池を挟んで対峙する多数の学棟群は、広場を囲み、ペデに向かって開かれている。それらを通り、広場の中央を、林の中を、池のほとりを、建物の間を、そして場合によってはピロティを通り抜けるペデの変化に富んだシーケンスは、極めて都市的な体験と言えよう。今まで私が体験した中で、最高水準の空間である。

A：宿舎からキャンパスへの通学路となっており、平日はたくさんの自転車・歩行者が行き交うのであろう。キャンパスをちょっとはずれると、自然の中の道、という感じもしてくる。

A 広大なキャンパスと宿舎。学生時代、このゆったりとした空間に24時間どっぷりと浸かり学問・クラブ活動に打ち込むことができる環境は何よりの魅力！ 当日は、学生が少なかったことが残念だ。

A：大学の中なのに、閉鎖的でないので驚きました。当日以来、新たな通勤ルートとして活用しています。学生寮があるゾーンも、いつも人がいる暖かな雰囲気があると思いました。ネコもたくさんいましたし。

B：大学以外の部分とつなげて設計したことがよい。自然が豊富で、空間の使い方が贅沢で、また、水辺の空間も多く、言うことはないと思う。ただ、学生宿舎は少し分散しすぎているのではないか。

B：改めて一本の道でつながっている空間の不思議さを実感しました。でも、自転車を足として住んだり学んだりしていた学生時代は、ちょっと移動が大変な校舎はあるけれど、それなりに便利に感じていました。空間評価ではないのですが、学生宿舎のセキュリティに驚きました。在学中は入りたい放題？だったのに…。

B：市民が入りやすいキャンパスになっており◎。大学の各施設の配置は、他にもありようがある気もする。

C：ここの評価は難しいです。宿舎の数には圧倒されました。そして、部屋は狭くて住みにくかったようなことを卒業生の方たちがおっしゃっていましたが、宿舎自体は、“灰色の四角い箱”ではなく、なかなか素敵な建物だと思いました。なので、風景としては、AかBです。ただ、何箇所かに掲示があったように、夜ひとりりで歩けない不安さがつきまとい、その意味では、Dではないかと思いました。

C：大学構内は、ペデに面して様々な利便施設などを配置しているようだったが、休業日だったため、うまく機能しているのかわからなかった。

C：センターからの入口に工夫が欲しい。当日は学生がいなかったこともあり、キャンパスとして空間評価が難しいと感じた。



筑波大学第二・第三学群棟の前を通るペデ



筑波大学一ノ矢学生宿舎へ向かうペデ

### 3 ■ 一番印象に残った場所・こと

赤塚公園★雑木林の中を歩くことは、とても心地よかった。

赤塚公園からの緑豊かなゾーン★家族も連れてきたいと思いました。

校庭とペデとの境に細い木が植えられていて、その学校側にフェンスが貼られていた場所★フェンスがなかったら、とても素敵だろうに・・・、と残念な気持ちが一番強かった。

つくば三井ビルから見た風景★つくばの街の全容を見たのは初めてだった。西側のT Xの線路に沿って、街が開けつつあるのが印象的。

つくば三井ビル19階★眺めが良かった。上れることを初めて知った。

センター地区ゾーン★ペデストリアンウェイということで印象に残る場所という、やはり、つくば駅周辺のセンター地区ゾーンです。

筑波センタービル★好き嫌いとは別に一番印象に残っているのが、筑波センタービル（特に階段を下りて行った先に広がる風景）。作品としてはすごいかもしれませんが、私にとっては決して和めないデザインでした。ただ、1983年完成ということを知り、全く古びていないことに驚きました。つい最近できたばかりの建物だと思っていました。

松見公園の展望塔とレストハウス★ずんぐりした栓抜きのような展望塔に対して、水面に浮かぶ白いレストハウスが美しい。建築家（菊竹清訓）の計算された彫刻のような建築である。しかし、いや、したがって、レストハウスは活用されていなかった。

筑波大キャンパス★とにかく広く、散歩に最適。人が少ない日だったので、余計に異空間という感じだった。

筑波大キャンパス★ペデに沿って様々な機能が連続的に並んでおり、空間的にも多様で、設計の水準も非常に高い。宿舎がたくさんあって、店舗や食堂・銭湯もあり、一つの都市のようだった。

筑波大学構内★大学内にあれだけ多くの学生寮がある環境が、社会主義国家のようで非常に興味深い。また、エアコンの室外機から2階・3階に延びるパイプがとてもシュールだった。



松見公園展望塔とレストハウス



筑波大学追越学生宿舎

#### 4 ■特に魅力的だった場所・こと

赤塚公園からの緑豊かなゾーン★家族も連れてきたいと思いました。

赤塚公園から洞峰公園★緑も深く、アカマツの幹が大変美しく、歩いていてとても気持ちがよかったです。

洞峰公園★自然の地形そのままか。四季それぞれによさそう。

洞峰公園★子供と遊ぶのに好きな場所。

東小学校や竹園西小学校★建物も良いが、ペデから表通りへの通り抜けに配慮されているのがさらに良い。

竹園西小学校★教室が明るく天窓もあり開放的。

つくばカピオ★広場に面したファサードのプロポーシヨンの良さ、ペデに面したカフェの配置、極めて繊細なディテールの処理など、とても素晴らしい建築。

つくばカピオ★正面のコンクリートの額縁構造を軽やかに見せるデザインが上手い。シンプルな設計に気品を感じる。

つくばカピオ★とてもとても美しい建築。当日も、多数の市民に使われていた。レストランを別棟にして、ペデに沿って配したのも、心憎いほど粋な工夫だ。

センター地区の広場★2階レベルで建物に囲まれ、舗装されて並木のある広場が美しい。

中央公園★池に面するレストハウスがとても美しい。建築とはこんなにも美しく創れるのか！と驚いた。

松見公園★人工的な感はあるが、池と芝生がいい。

中央公園や松見公園のレストハウスの水に浮かんだようなデザイン★水と建物があまりにもじっくり馴染んでいて落ち着きました。

筑波大学★いくつもの池が配置された広大な敷地。宿舎の配置も美しかった。

筑波大学構内の宿舎群★色や形が画一的でなくて良かったです。また、周りに生えた雑草との相性も良く、東欧の絵画みたいな雰囲気でした。

追越学生宿舎★芝生広場を囲む配置、生活センターを通り抜ける通路などヒューマンスケールで心地よい。

平砂学生宿舎★窓が斜めで、外から見ただけでは造りがさっぱりわからなかった。

筑波大学D棟★池と林の間に建ち、道に沿って円弧を描き、透明感あふれるファサードが美しい。

筑波大学体育・芸術学群★大きなピロティをペデが貫いているのだが、そこにモニュメントが置かれ、学生たちがダンスの練習などに集っていた。

筑波大学第一学群★人工地盤のような2階レベルに広場があり、そこをペデが通り抜けている。積み木を重ねたようなかわいい建物がたくさん並んでいて、ヨーロッパの大学のような。

筑波大学第二・第三学群★池に沿ってペデが通り抜ける細長い広場を学棟群が囲んでいる。筑波大のキャンパスは広くて大変だと聞いたが、中心部は高密にまとまって歩いて行動できる空間になっていた。

大学図書館前の芝生(傾斜がある場所)から眺めた第二・第三学群、大学会館前の広場★とても個人的な理由ですが「懐かしい」からです。でも、空間的にも池と木々と校舎(前者)、大学会館とそこから下る階段状の芝生と(後者)のそれぞれの色合いが好きだからです。淡い新緑や濃くなってきた緑と抜けるような青空だとよりキレイでさらに魅力的です。



つくばカピオの美しいファサード



筑波大学会館前の階段状ピロティ

## 5 ■今後つくばの街はどのようになっていったらいいか、その中でペデの活用・再生の方向は

- 公務員住宅などが多く、定住人口がどの程度になるか、どのような形で「成熟」していくのか読みにくい部分があるが、安定成長、少子高齢化といった状況下では、周辺のエリアと一体となった、車なしでも住み良い街を目指すべきだと思う。その中で、ペデが街作りの背骨として中核的な装置になっていくものと思う。
- ペデが歩行者軸としてもっと活用されるよう、沿道に洒落たお店や学生のたまり場がもっとあると良いと思う。街全体としては、高低差が少ないことから、もっと自転車を活用できるよう、専用道や貸し自転車のシステム等の整備を進めてはと思う。
- TXの開業で、つくばも、車だけでなく歩行者・自転車・バス利用の可能性が高まった。ペデも、歩行者道として、駅から南北1キロくらいは沿道に店舗や公共施設を置いて、賑わいを出すと面白い。それ以遠も街灯を整備して安全性を高め、駅付近のペデ沿いに駐輪場所を設けて自転車利用を促すといい。
- ペデから研究施設へのアプローチがよくなれば、よりペデが活用できると思う。
- ペデは貴重な空間なので、周辺を高度利用して、東大通り、西大通りにシャトルバスを走らせるのが良いのでは（もちろん個人的意見です）。
- 一日だけではよく分からないが、もっと季節感のある花・樹木が多くても良い。自転車・バイクとの棲み分けの程度がよく分らなかった。
- TXで筑波大へ通学する人は、駅から歩くには遠いのでバスだろうか？ 今となっては、キャンパスがセンター地区に近い方が良かったかもしれない。ペデは歩く（あるいは自転車）には非常に良いが、普段、歩いてこの道を移動して行く目的地がどのくらいあるか。センター地区以外はほとんどないような気がする。
- せっかくの緑道なのに、歩いている人が少なかった気がします。よそ者の私には素敵に見えた道も、地元の人たちにとっては単なる道でしかなく、必要がなければ通らない、ということなのかもしれません。（活用や再生については、難しくてもよく分かりません）
- つくばの街は、車社会を前提とした計画都市であり、ペデはその中では補完的な機能しか持ち得ないので、あまり頑張っても効果はないと思う。この地域では前提となる車社会が簡単には変わらないので、今後もこの路線でまちづくりを進めていき、その結果をしっかりと評価すべき。



ペデに面するカフェテラスとマーケット



ペデに掲げられた自転車・歩行者共存ルール

## 6 ■その他、今回の企画に対する感想など

●筑波研究学園都市の背骨にあたるペDESTリアンウェイを歩くことで、学園都市の都市構造を体感することができました。今回の企画は、つくばの街の構造を一日で楽しく理解でき、大変良かったと思います。

(M・H)

●天候にも恵まれた秋の一日を、車の往来の心配をすることなく、気持ちよく歩くことができました。どうもありがとうございました。(M+y・W)

●コース・距離・天候・季節いずれも恵まれ、とてもよかった。全区間をじっくり歩けたことも良かった。つくばがよく分かった。(I・T)

●つくばを南北に縦断するという企画は、つくばの全体像を体験できて、非常に面白い企画でした。筑波大学が休業日で、日常の雰囲気がわからなかったのが残念です。(T・K)

●「つくば」地域は、桜村の頃からよく行っている場所ですが、歩いたことはほとんどなく、今まで見えなかった街の部分が見えてよかった。(T・K)

●日常の空間を同じ趣味・嗜好の人たちと歩けて良かったです。(T・T)

●ペDESTリアンウェイというような名称は、公園内の園路ではなく、商業や業務機能の集積している地区内の歩行者専用道と、集合住宅地区内の歩行者ネットワークとしての歩行者専用道といったものにしか使えない単語だということを再認識した。(T・S)

●ペDESTリアンウェイという歩車分離動線の方式は、かつて盛んに用いられ、今は防犯上の心配や車社会の進展によって忘れ去られつつあるが、その最高水準であるつくばのペデを歩いて体験し、この豊かな空間を現代に活かす方法はないかと考えさせられた。広漠としたイメージのあった筑波大学が、ペデを中心とした極めて都市的な空間であるとわかったのも、大発見だった。(R・O)

●とても面白い企画だと思いました。そもそも私はつくば自体が初めてだったので、すべてが新鮮でした。ただ、仕事などでつくばに深く関わっている方たちも、歩き通したのは初めてとおっしゃっていて、もったいないな～と思いました。考え事をするのに良さそうな区間がたくさんありました。(M・Y)

### ◆コーディネイターからのひとこと

筑波研究学園都市は、科学技術の振興と東京一極集中の緩和を目的に、巨額な国費を投じて建設されました。赤松林を切り開いて道路をひき、ライフラインを整備し、敷地を造成し、大学や研究機関を移転させ、住まい（公務員宿舎等）を整備し…と、つくばの開発初期（1980年代まで）に国家プロジェクトの「実行」に携わった諸先輩方を何人か知っていますが、その方々の言葉は、最新の技術をもって都市開発を実現させた自負に溢れ、いつも熱くて弾んだものでした。そんなつくばの昔話（今となっては）を熱く語るおじさんを思い浮かべて、ノスタルジーを感じながら歩いていたのは、私だけだったに違いありません。

つくばのこれからのまちづくり（都市の器の中での再生等）がどうなっていくのか、それは、私たちの世代以降が担っていくことなのでしょうね。（佐藤晶子）



筑波大学中央キャンパス  
(図書館前広場と第二・第三学群棟)